

中野図書館の現状と課題

～開館から3年半余りが経過して～

久保木 和義^{*}

1. はじめに

『図書の譜』18号(2014年3月)で、中野図書館の計画立案、設計、施工、機器・備品、開館準備などについて、また2013年4月の開館から2014年1月までの状況を中野図書館検討WGのメンバーであった杉谷美和氏と共に報告した。

本稿では、2013年4月の開館から3年半余りが経過した中野図書館の現状の報告と今後の課題およびその対応について考えることを述べる。

2. 中野図書館の現状

2.1 蔵書

中野図書館の図書収容可能冊数は、当初46,000冊とされた。その後、棚板を増設し、現在棚板総延長から算出した収容冊数は51,900冊である。

中野図書館の蔵書は、2013年4月1日開館時、20,467冊(簿外図書も含む)でスタートした。内訳は、学部、研究科・専攻設置に伴って購入した図書(国際日本学部約6,000冊、理工学研究科新領域創造専攻約3,000冊、先端数理

^{*}くばぎ・かずよし/明治大学 中野キャンパス事務部 中野教育研究支援事務室

科学研究科約 2,000 冊，総合数理学部約 1,600 冊）と基礎図書約 6,000 冊，および英語リーダーなどの簿外図書である。設置に伴う図書は，設置年度によって，和泉，生田図書館から移管されたものも含む。基礎図書は，参考図書約 800 冊と 2011 年度に和泉，生田図書館で購入した図書の中から中野図書館検討WGで選書した約 4,700 冊などである。2013 年度は教員からの推薦があつて岩波文庫をセット購入するということもあった。

その後の増加は表 1 のとおりである。2013 ～ 2014 年度は，総合数理学部設置図書購入があつたため，増加冊数が多かった。国際日本学研究科設置図書は，2012 年度から続いている。

	冊数	増加数
2013年4月	20,467	
2014年4月	32,342	11,875
2015年4月	41,500	9,158
2016年4月	46,040	4,540
2016年11月	48,745	

表1

2017 年度中には，収容冊数限界に達すると予測して，2016 年度末に生田保存書庫への移転を実施することになっている。対象図書は，上記基礎図書のうち貸出回数が 2 回以下のものから抽出した約 3,000 冊である。

中野キャンパスは，文系学部と理系学部の両方があり，多くの分野の図書を必要とし，50,000 冊の蔵書ではとても不足である。書架スペースが増えるまでは，基本的な図書をさらに厳選して蔵書構築するとともに，電子ブックも含めて学習用図書を選書する必要がでてきている。

2.2 利用状況

2.2.1 入館、入館者数

2013 年度以降の入館者数の推移は、表 2 のとおりである。

年度	学生数 (中野)	学生数 前年度比	入館者数	入館者数 前年度比
2013	2,159		97,633	
2014	2,412	111.7%	117,088	120%
2015	2,692	111.6%	146,079	124.8%
2016 (12月まで)	3,099	115.1%	120,074	

表2

開館3年目の2015年度は、3時限目から5時限目にかけての時間帯、試験前でなく通常期でも閲覧席が最大7割程度がうまるようになった。この変化は顕著であった。定期試験前はほぼ満席（在館者が110名以上）となる時間帯のある日が春学期だけで約10日あった。

今回入館ゲートのログを使って集計してみたところ、中野キャンパス学生のうち、2015年度に1度でも中野図書館に入館した学生数は、2,692名のうち2,531名で、約94%という高い割合であることがわかった。

2016年度は、総合数理学部学生が4年生までそろった年だが、前年度と同じような入館状況である。座席を使いたくとも使えない学生は増えているといってよいだろう。

中野図書館の座席数は160席（入館ゲートの外にあるラウンジを除く）であり、キャンパス学生数の約5.2%である。他キャンパスでは10%程度は確保している。少しでも中野図書館の学生利用を優先させるため、学内手続きを経たうえで2016年10月からリバティアカデミー会員の利用を停止した。

中野図書館は、静かに学習する場所として定着し、今日に至っている。他の学習場所としては、学食、クロスフィールド・ラウンジなどがある。定期試験前は研究セミナー室（最大3室、合計162席）も自習室として開放しているが、利用は少ない。学食などでは話しながら学習する姿もみられるが、グループ閲覧室のような施設が中野キャンパスにはないので、低層棟3階の事務室に学生から要望が寄せられたことがある。

2.2.2 貸出

2013 年度以降の貸出冊数推移は、表 3 のとおりである。

年度	学生数 (中野)	貸出冊数 (学生のみ)	貸出冊数 前年度比
2013	2,159	23,739	
2014	2,412	32,089	135.2%
2015	2,692	34,977	109%
2016 (12月まで)	3,099	31,027	

表 3

2015 年度の各キャンパス図書館の学生一人当たりの貸出冊数は表 4 のとおりである。

	学生数	貸出冊数	学生一人当たり冊数
中央図書館	11,821	125,748	10.6冊
和泉図書館	10,901	116,397	10.7冊
生田図書館	7,476	61,064	8.2冊
中野図書館	2,692	34,977	13.0冊

表 4

2.3 情報リテラシーなど教育活動

2013 年度から 3 年間の中野図書館の実績は表 5 のとおりである。

		2013	2014	2015
図書館活用法	履修者数	11	10	16
ゼミガイダンス	回数	28	21	18
	履修者数	167	218	211
出前講義	回数	3	2	2
	履修者数	22	30	40
各種講習会	回数	17	23	10
	参加者数	80	68	84

表 5

ゼミガイダンスでは、総合数理学部現象数理学科の1年生全員が受講しているのが大きい。2017年度は、総合数理学部で新たな情報リテラシー教育科目ができると聞いているため、その影響があるかどうか、気になるところである。

2.4 現状のまとめ

今までみてきたように、施設の面積といった抜本的な要因に由来する問題以外は、大きな問題がなく、安定した開館運営を行うことができてきた。入館者数、貸出冊数といった基本的な数値も比較的よい値である。これは、以下にあげるような長所によるところも大きいと思う。

基本的なサービス、カウンター対応などにそつがなく、ほとんどの利用者により印象をあたえているように思う。

快適な館内利用環境の維持も重視してきた。図書館スタッフも必要な清掃を定期的に行い、室温の管理も自分たちできめ細かく行い、湿度の監視やできる範囲での除湿もしてきた。

規模が小さめであることもあって、専任職員と業務委託責任者、専任と派遣職員、業務委託者間のコミュニケーションが円滑かつ活発に行われてきた。さらに、日々の問題について、共通理解を図り、なおざりにせず、きちんと収束や区切りをつけてきたことが運用の安定につながったと思う。

3. 今後の課題について

3.1 書架スペース頭打ちの中での図書購入

書架スペースが追加建築などによって増加されるまでは、限られたスペースの中で図書を購入していかなければならない。今回のように生田保存書庫への移転という方策もあるが、前述のように、中野図書館が他キャンパスに先駆けて電子ブック利用拡大の足掛かりを作ってはどうかということも考える。電子ブック購入の候補としては、各館共通で購入するような資料で、利用頻度が高く、かつ定期的に更新されていくようなものがまず候補となろう。例えば、英語リーダーなど語学教育関係の資料、各国事情についての資料、就活関係資料などがある。さらに、資料の価格比などを考慮して、例えば冊子図書と電子ブックの購入タイトル数の割合を設定して、

計画的に選書していくことも考えられる。

3.2 教育活動やイベント

教育活動で、多くの学生を対象にしているのは、やはり、ゼミガイダンスや出前講義である。いろいろなリクエストに応えられるよう、また、スタッフがかかわっても円滑に対応できるよう準備をしておく必要がある。企業情報関連講習会も就活時期に合わせて実施すると参加者が多いため重視したい。レポートや論文作成に関しては、文献収集方法や注・参考文献の書き方などを中心にレファレンス担当者が的確に教えられるよう、さらに取り組みたい。

また、学部間共通総合講座「図書館活用法」も引き続き充実させていく必要がある。履修者数は10名前後でスタートしたが、2015年度は16名、2016年度は32名と増えた。

イベントとしては、より多くの学生が参加するものが必要であろうし、学部教育との関わりで、マンガ図書館の見学なども考えられる。

3.3 2期工事

図書館では設計当時から中野図書館の2期工事は必須としてきた。実施されなければ本稿でもみてきたとおり必要条件が満たされていないということであり、引き続き重点項目として推進されなければならない。

4. おわりに

本稿では開館から3年半余りが経過した中野図書館の現状と課題について述べてきた。

施設の拡張が図られない限り、限られたスペースの中で開館運営をしていくことになる。物的要素で基本的なものはなんといっても蔵書である。選書は十二分に力を注ぎたい。また、全サービスの質をさらに高めるため人的要素が重要なのは言うまでもない。

最後になったが、開館以降、中野図書館に関わったすべての方々に感謝を申し上げたいと思う。